

ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和5年2月28日発行

(本年度13号)

目指す子ども像
心も体も鍛える子



6年生を送る会 と 春の足音

昨年の2月末は、コロナ禍の影響でまん延防止措置が延長され、「6年生を送る会」を参観日にすることができませんでした。新型コロナウイルス感染症の効果的な感染防止対策についても変化し、参観日として開催することができました。今まで学校のために色々頑張ってくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと、各学年が工夫を凝らして発表しました。毎年見どころ満載の発表が見られますが、今年も6年生への思いをしっかりと込めた、素敵なお発表が見られます。

1年生は劇「ありがとう6年生」を発表しました。初めての送る会でしたが、劇の中では、6年生担任を救うために勇気を出して戦うお話を披露し、お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えました。2年生の「ようこそお化け学校へ～次はあなたの番です～」や3年生の「福井小ふるさと探検隊」、4年生の「6年生と成長を祝おう」では、6年生に向けて「卒業しても福井小学校の事を忘れず、自分らしさを大切にして頑張ってください」というメッセージが伝わってくる発表でした。5年生は、次期最高学年として、実行委員の中心になってたくさんの役割を担い、事前準備でも4年生をリードしながら活躍しました。5年生の劇「6年生の最後の仕事」もユーモアたっぷりの楽しい発表でした。学年末で、各教科の学習と並行して準備や発表の練習をするのは、大変だったことでしょう。それでも「6年生を送る会」を成功させるために、みんなで協力して取組を進める姿から、来年度の福井小学校のリーダーとしての自覚と頼もしさを感じました。6年生は「16ピース！～未来に向かって大きく Jump～」と題して、福井小学校での思い出を劇にして発表しました。自分達が大切にしたい小学校生活の思い出を、素敵な合奏と合唱と合わせて披露しました。保護者の皆様には、該当学年の発表を会場で、他学年の発表は教室のモニターでその様子をご観覧いただきました。教室と体育館を何度も往復させてしまったことに加え、体育館と教室のリモート機材がスムーズにつながらず、非常に見辛い画面・音声となってしまいました。重ねてお詫びいたします。

1年間の集大成でもある「6年生を送る会」。最高学年として頑張ってくれた6年生に感謝の気持ちを伝える事が目標ではありますが、子ども達がこの1年間で頑張った成果を発表する場でもあります。送る会当日、緊張しながら子ども達が見せてくれた生き生きとした発表から、それぞれが取り組んできた成果がしっかりと感じられ、すごく成長したと思いました。大勢の前で話すことが苦手だった子が、堂々と演技する姿。みんなで励まし合いながら、もっとより良いものを目指そうとするチームワーク。お互いの良さを生かしつつ、足りないところを補い合って協力する仲間意識。一人一人の成長はもちろんですが、学級として一人では不可能な事を仲間とともに成し遂げる達成感も感じたのではないのでしょうか。子ども達の成長をたくさん見ることができた「6年生を送る会」でした。

毎年6年生の卒業アルバムには文集が載せられます。その原稿を読みました。小学校生活6年間を振り返りつつ一人一人が綴った文面には、楽しかった事や学んだ事、身の回りの人に感謝している事、一番心に残った事、中学校で頑張る事などが本人の言葉で表現されていました。中には、自分は勉強が苦手でもなかなか成果が出せなかったが、頑張る努力したり、たくさんの人に励まされたりして、随分できるようになったことを書いた作文もありました。「自分の苦手」をしっかりと受け止め、その解決策を理解する事は、非常に難しいですが、自分の小学校生活を振り返る中で、大切な学びがあった事に気付いている子ども達です。



3月に入り春の足音が聞こえます。「3月は去る」といいますが、本当に早く、3月の授業日数は16日間です。6年生にとっては、小学校生活の思い出をしっかりと心に刻み、中学校へ向けて助走しなければなりません。在校生も、次の学年に向けてステップアップできる力を蓄える大切な時期となります。この1年間をしっかりと反省して、次に繋がられるように、学年のまとめをして令和5年度を見据えた締めくくりに向けて頑張ってくれることを期待します。

保護者・地域の皆様方には、本年度の最後まで本校の教育活動に変わらぬ理解とご協力をお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同